



組合員の声を市町へ

地域農業振興に向け要望書を提出

当JAは7月16日に裾野市、清水町、8月2日に沼津市、長泉町を訪れ、4市町の首長へ令和7年度の農業振興対策と農業予算の拡充を盛り込んだ政策要望書を提出しました。

要望書は、農家組合員・生産組織などとの意見交換会や生産現場から聞き取った課題・問題点をもとに作成。有害鳥獣対策の強化や各市町の課題に応じた施策の展開などを求めました。



村田悠裾野市長(左)へ要望書を手渡す梶穀組合長



少年少女剣道大会を後援

副賞として特産米を贈る

8月24日、25日に第12回富士山杯争奪少年少女剣道大会が御殿場市で開かれ、当JAは同大会の主旨に賛同し後援しました。

副賞として、当JA特産「ごてんばこしひかり」のトップブランド「このはなの恵み」を提供。梶穀組合長が、表彰式で入賞チームに目録を贈呈しました。後援を通じて、青少年の健全育成や地域農業のPRにつなげています。



梶穀組合長(左)が入賞チームに副賞の目録を贈呈



組合員の意思反映に向けて

第1回地区本部運営委員会代表者会議開く

当JAは8月26日、令和6年度第1回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。各地区本部運営委員会の会長・副会長、JA役職員が出席。村松孝規会長(富士地区)が議長となり、新本店建設の進捗状況などの報告や各地区運営委員会で寄せられた意見要望への各事業の対応などを検討しました。

組合員の皆さまの意思をJA事業に反映させていくよう、今後対応を協議していきます。



議長を務める村松会長(右から3人目)



茶の消費拡大へ

役職員による茶消費拡大に向けた取り組み

当JAでは、お茶の振興や消費拡大で生産者を応援しています。

7月には「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」の試飲キャンペーンを管内8地区の全支店で実施。1万人以上のお客さまに呈茶サービスを行いました。8月からは、約2,300人の全役職員で「茶の愛飲運動」を実施。日頃からお茶に触れ、茶情勢への理解醸成を進め、各方面へお茶の魅力発信に努めています。

※本取り組みは「JA共済地域・農業活性化促進助成金」を活用しています



「緑茶館ぬまつ」で試飲する来店客(右)



JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

管内の生産者が多数入賞

全国・県の品評会や関東の共励会で各賞を受賞

5月から8月にかけて品評会や共励会が行われ、管内の生産者の方々が多数入賞されました。各賞の上位入賞者は次の皆さまです。敬称略、()かっこ内は地区名

■第57回全農乾椎茸品評会

農林水産大臣賞: 桑名 二郎(伊豆の国)・小柳出 勝(伊豆の国)
林野庁長官賞: 野中 一男(伊豆の国)

■第71回全国乾椎茸品評会

農林水産大臣賞: 福室 勝義(伊豆の国)
林野庁長官賞: 朝香 博典(伊豆の国)・鍵山 博民(伊豆の国)

■第52回日椎連乾椎茸箱物品評会

林野庁長官賞: 堀江 富男(伊豆の国)・飯田 洋(伊豆の国)
三枝 廣次(伊豆の国)・萩原 和利(伊豆の国)

■第16回関東生乳品質改善共励会

優秀賞: 渡辺 謹一(伊豆の国)
優良賞: 石渡 哲郎(三島函南)

■第23回静岡県なし果実品評会

金賞・静岡県知事賞: 飯島 正道(富士)
銅賞: 三浦 光大郎(富士)・高橋 康文(富士)・田島 一寿(富士)

■第3回全国えだまめ選手権

入賞: 三島枝豆出荷組合(三島函南)



通算10回目の農林水産大臣賞を受賞し名人位に就任した桑名さん(左)と、関東生乳品質改善共励会で優秀賞を受賞した渡辺さん(右)



県知事賞を受賞した飯島さんと受賞のなし



高品質生産に向け情報共有

令和6年度柑橘サミット開催



「連携して産地を盛り上げたい」と呼びかける生産者(中央)

当JAは8月9日、令和6年度柑橘サミットを伊豆の国市で開きました。管内の柑橘主要産地5地区の生産者と、高木力常務をはじめJA役職員、経済連、農林事務所の担当者ら32人が出席しました。

全国や県の情勢を確認したほか、傾斜地みかん園における無人航空機(ドローンや無人ヘリ)防除やニューサマーオレンジのカットバック処理の普及についての試験事例を共有しました。

JA担当者は、管内各産地の重点取り組み状況やレモンの産地化に向けての経過などを説明。意見交換では、担い手確保に向けた指導農家を増やしていく方法を話し合いました。

高木常務は「JAや経済連がそれぞれの立場から、組合員の農業所得の向上に向けた支援をしていかなければならない」と話しました。



地区をまたいだ施設活用

御殿場のライスセンターで伊豆の国の米受け入れ

御殿場地区には、米の品質低下を防ぐため籾(もみ)の状態での貯蔵できるコシヒカリ専用のカントリーエレベーターと、うるち米ともち米の乾燥機、粳すり機、色彩選別機を備えたライスセンターがあります。

両施設とも御殿場地区産米の受付を9月に終了し、ライスセンターは10月上旬から伊豆の国地区の米を受け入れます。伊豆の国地区の米は令和4年の合併当初から受け入れています。



トラックで運び込まれる伊豆の国地区の米(令和5年撮影)

身近なもので脳トレ&リフレッシュ

女性部「健康作りのための講習会」開催

女性部富士地区本部は7月26日、富士市のホワイトパレスで「健康作りのための講習会」を開き、部員100人が参加しました。

講習会では打楽器奏者でリズムインストラクターの山本晶子さんの指導のもと、体や楽器、紙コップなどを使ったリズム演奏に挑戦しました。参加者は「頭と体を使って楽しくリフレッシュできた。日々の生活に取り入れたい」と話しました。



歌いながらリズムに合わせて体を動かす参加者



「するがの極」生産・販売拡大へ

ブランド米推進協議会が総会開く

当JAと沼津市・裾野市・長泉町・清水町などで構成するブランド米推進協議会は、8月7日に通常総会を開き、「するがの極」の生産を通じた稲作経営の安定やブランド戦略強化の方針を決定しました。

生産面では、営農管理システム「Z-GIS」と衛星画像データでほ場の生育状況を可視化できる「ザルピオフィールドマネージャー」の試験的な活用を行い、品質向上と収量確保に努めます。



今後の方針を協議する出席者ら



ドローン活用し猛暑対策

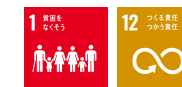
ハウス用遮光剤をドローンで散布

当JAは7月22日、三島市のトマトハウスにドローンによるハウス用遮光剤の散布を行いました。

ビニールハウスの屋根に遮光剤を散布することで、定植直後の作物を高温から守る効果があります。従来は生産者が脚立でハウスに登り散布していましたが、ドローンを使うことで作業時間と手間を大幅に削減し、事故のリスクも軽減できます。今後は他の作物のハウスでも実施していきます。



委託業者と連携してドローン活用を推進



米の品質向上へ

米穀検査機器・システムを新規導入

伊豆の国地区は、JA共済地域・農業活性化促進助成金を活用し、穀粒判別器と食味分析計、良食味米育成支援システムを導入し、伊豆市特別栽培米「伊豆の恵」の米検査で活用しています。

気温上昇や降雨の影響で米の品質低下が懸念される中、検査機器・システムを活用して米の分析結果を詳細に把握し、栽培管理の対応策を明確化することで品質向上・生産者の所得向上を目指します。



米穀検査機器の操作を確認する営農アドバイザー



中学生が伝統野菜栽培に初挑戦

JAと生産者が連携し次代につなぐ

富士宮北部支店運営委員会と同支店は7月22日、支店前の畑で富士宮市立富士根北中学校2年生11人に、地区伝統野菜「村山ニンジン」の畝たてや種まきを指導しました。

同支店では1支店1協同活動で平成24年から栽培してきましたが、生産者の高齢化解決と地域活性化につなげようと学校に協力を依頼。生徒は総合学習で収穫まで管理し、PR活動を研究していきます。



運営委員(右)の指導で種まきに挑戦する生徒



「伊豆太陽ハウスみかん」消費宣伝

部会員がおいしさと食べ方をPR

伊豆太陽地区ハウスみかん部会は7月27日、沼津卸団地の「食遊市場」でハウスみかんの消費宣伝を行いました。近隣住民のほか、帰省客や観光客など大勢に、おいしさをPRしました。

当日は猛暑日でしたが、濃くて甘い果汁たっぷりのハウスみかんは「暑い日もおいしく食べられる」と大好評。部会員は「冷やして食べると甘みが増す」と、暑い日のおいしい食べ方もおすすめしました。



試食でおいしさをPRする部会員



一等米の生産を目指して

生育調査し営農アドバイザーがアドバイス

あいら伊豆地区営農販売課は一等米の生産強化に向けて、水稻のトップ営農指導員と連携して生産者を支援しています。

7月12日には、伊東市池地区で水稻の生育状況を調査。経済連と肥料メーカーの担当者と共に、幼穂の生育状況や1株あたりの分けつ数、葉色などを測定し、追肥のタイミングや量、カメムシ防除、水管理について生産者にアドバイスしました。



生産者の水田の生育を調査しアドバイス